

研究課題名：「Health Creation」：予防・ヘルスケア領域におけるさらなるブランディング化を目指して
 Research subject name：Aiming for further branding in the field of prevention and healthcare

特筆すべき取組事項（キーワード）

- 1. 痩せた女性の糖代謝障害メカニズムの解明
- 2. 非肥満者の代謝異常メカニズムの解明
- 3. 共同研究講座「健康寿命学講座」の開設
- 4. 文京ヘルススタディーの推進

主な取組内容



研究代表者
 スポーツロジックセンター
 田村 好史 委員長

研究参加者

食後高血糖となる耐糖能異常が痩せた若年女性に多いことが明らかに～痩せていても肥満者と同様の体質～

順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学・スポーツロジックセンターの田村好史 先任准教授、河盛隆造 特任教授、綿田裕孝 教授らの研究グループは、日本人の痩せた若年女性 (BMI <18.5kg/m²) に食後高血糖となる耐糖能異常が多く、その原因として、主に肥満者に生じるインスリン抵抗性や脂肪組織の異常が関連することを世界で初めて明らかにしました。本研究結果は、痩せた若年女性の比率が先進国の中でも最も高い（約20%）本邦において、痩せた若年女性に対する生活習慣病発症への予防的取り組みが必要であることを示唆しており、我が国の予防医学を推進する上でも、極めて有益な情報であると考えられます。本研究は米国内分泌学会雑誌「*Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism*」のオンライン版で公開されました。

正常体重でも代謝異常となる原因に脂肪の「質」が関連～太っていなくても生活習慣病になる原因？～

順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学・スポーツロジックセンターの田村好史 先任准教授、河盛隆造 特任教授、綿田裕孝 教授らの研究グループは、正常体重の日本人男性約100名を対象に、全身の代謝状態や脂肪分布に関する網羅的な検査を実施した結果、脂肪組織の「質」の指標となる「脂肪貯蔵機能」や「アディポネクチン濃度」の低さが、インスリン抵抗性、高中性脂肪血症、肝脂肪蓄積などの代謝異常の本質的な原因であることを明らかにしました。日本人をはじめとしたアジア人では、太っていなくても生活習慣病になってしまう人が多い一方で、そのメカニズムはよくわかっていませんでしたが、本研究成果によりその一因を説明できる可能性があり、予防医学の観点からも、極めて有益な情報であると考えられます。本研究は米国内分泌学会雑誌「*Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism*」のオンライン版で公開されました。

研究実施担当者	染谷由希、笈佐織
協力者（教員）	河盛隆造、綿田裕孝、加賀英義、田村好史、代田浩之、金子和夫、石島旨章、三井田孝、平山哲、小西清貴、上野隆、服部信孝、本井ゆみ子、内藤久士
協力者（上記以外）	田端宏樹、アブドラザクアブラティ、青木孝子、黄輝、アビダンアブリミティ、アルパティアディリ、劉立足、岩上美由紀、斎藤明香、佐藤元律、山崎望、木屋舞、内藤仁嗣、大塚光、梅村二葉、石巻聡

事業申請時の計画に対する実施状況（2020年度分）

実施計画1 Bunkyo Health Studyに参加した1,629名についてベースライン測定から5年後の測定を開始する。
当初の予定通り、測定を開始した。コロナ禍により、被験者のエントリーが若干遅れたが、継続して測定を進めている。

実施計画2 Bunkyo Health Study・Sportology Center Core Studyを中心にした研究成果の原著論文を10本発表し、プレスリリースを3本行う。

Bunkyo Health Study・Sportology Center Core Studyを中心にした研究成果の原著論文を12本発表することが出来、2本のプレスリリースを行った。

実施計画3 共同研究講座の開設を行い、研究を推進する。GAUDI、AIインキュベーションファームとの連携を検討する。

2020年11月にカーブスジャパンと共同研究講座「健康寿命学講座」を開設し、研究を開始した。

ブランディングに対する取組状況（2020年度）

ブランディングに対する取組状況

- ・本年度成果について2021年2月16日、2月22日にプレスリリースを行った。
- ・上記研究成果について以下のメディアによる取材を受け、スポーツロジセンターのホームページでリンクを公開した。
2021年2月27日朝日新聞DIGITAL、2021年3月1日日本経済新聞、2021年3月24日ヨミドクター、
- ・Bunkyo Health Study・Sportology Center Core Studyを中心にした研究成果を以下の学会で発表した（カッコ内は演題数）。
2020年6月12日～16日80th American Diabetes Association（7）、2020年8月8日ISMRM 28th annual meeting and exhibition（1）、2020年4月30日～5月3日Austria Osteoarthritis Cartilage（9）、2020年5月30日67th American College of SPORTS Medicine Annual Meeting（1）、2020年10月3日第70回日本体質医学会総会（1）、2020年9月5日第39回日本臨床運動療法学会学術集会（1）、2020年9月2日～3日第54回糖尿病学の進歩（1）、2020年8月4日～6日第62回日本老年医学会学術集会（1）、2020年12月1日-15日第7回日本サルコペニア・フレイル学会大会（1）、2020年9月11日～10月4日第48回日本磁気共鳴医学会大会（1）、2020年5月21日第93回日本整形外科学会学術総会（7）、2020年7月20日第64回日本リウマチ学会総会・学術集会 シンポジウム（1）2020年10月30日～11月1日第60回日本臨床化学会年次学術集会（1）

次年度に向けた計画（概要）、想定するブランディング活動【事業申請時計画】

①次年度に向けた計画（概要）

2021年度は前年度と同様に、Bunkyo Health Study・Sportology Center Core Study、共同研究講座「健康寿命学講座」を中心とした研究発表やプレスリリースを行う。

②想定するブランディング活動

成果物のプレスリリースを実施するとともに、研究内容を国際教養学部・保健医療学部・医学部・スポーツ健康科学部など他学部の学生にも、学部生に対するセミナーの開催を実施することにより公開する。